

齋藤 勲 昭和 41 年卒

「2012 北信越かがやき総体」の夏

若い OB 達と一緒に登ったインターハイの夏はかけがえのない時間だった。そして選手たちは優勝を勝った。宝石のように輝く今年の夏の思い出を記してみよう。

1) 支援隊員の募集 「人員不足の時は私が応募します」

2011 年 9 月 14 日、吉田先生への返信メールから、

「・・・暑いさなかのインターハイのサポート要員となると、やはり若い人の出番でしょう。ただ本番の日程が平日の為、サラリーマンは 5 日間もの休暇取得が難しいものと思われます。ㄇ切日まで必要人員が揃わないときは私が応募しますので、頭の片隅に置いておいて下さい。・・・」

インターハイ支援隊員募集で不足人員が出た時の為にと思い、吉田先生宛にメールしたものである。しかし、いの一に 64 歳の老体の私が支援隊員としてエントリーされてしまった。「シテヤラレタ。」

ただ、私自身は本校 OB が卒業後、山からすっかり離れてしまい、社会人になって登山や山スキーをしている人が一握りの限られた者だけなのがとても気がかりであった。この機会に現在の高校山岳部の活動目標の一つであるインターハイというものの実態をこの目でしっかりと見ておきたかった。

果たしてインターハイは日本の岳人の養成に役立っているのでしょうか？支援隊員としてインターハイを側面から手伝うことで何かが見えてくるであろう。

2011 年 12 月 3 日、支援隊員は最終的に 13 名が揃った。吉田先生の人徳というものである。

2) 登山行動

・2012.8.8 平標山（行動 1 日目） 「丸山医師はマラソンランナー」

昨日の開会式では本校選手隊の高橋 CL が立派に選手宣誓の役目を果たした。廣瀬 OB 会事務局長も開会式中アメリカから帰着し支援隊員は全員集合する。

朝からガスの中での登山となりそんなに暑くなく助かる。頂上付近は白山風露、細葉雑草、白山千鳥、下野草、姫シャジンなどが咲きお花畑になっていた。頂上手前から小雨が降り始める。

頂上から下山中、小雨に濡れた木道で一名の監督が転倒し怪我したとの伝言があり監督団が停止する。監督団を先導する森田君からも無線連絡が入る。支援隊副隊長の役目の私は最

後尾を歩く位置取りである。現状確認の為、前方へ急ぐ。現場へ到着する前に隊列が動き始めた。負傷者は自力で歩けるらしい。

随行の丸山医師の診断では手の指の脱臼とのことである。明日からの行動も支障ないとの話で安心する。丸山医師は豪放磊落な性格らしく、説明も的を得て分かりやすかった。マラソンランナーでもあるとのことですから仲良しになった。

・2012.8.9 苗場山(行動2日目) 「雲尾坂での交差を回避せよ」

13Kmほどの登降の長丁場の今日も昨日同様3時起床、5時引継式、5時20分バス出発で行動する。今日も時々ガスに包まれ快適な登山が出来たが、問題は頂上直下、雲尾坂で起きた。監督団は行動開始後、3回目の休憩をお花畑でとった。先導する森田君は、すぐに先に行く選手団に追いつくとの思いがあり少し長めに15分の休憩時間とした。

悲劇はそのあと、雲尾坂を登っている時に笛木コース隊長の無線連絡で始まった。「先頭の出発時間が近づいています。雲尾坂での選手団と監督団の交差を避ける為、個々の間隔を詰め早めの頂上到着をお願いします。」そんな状況を想定していなかった私は笛木隊長の指示をそのまま大声で監督団に伝えた。するとどうであろう、今まで烏合の衆のようで非協力的な者が若干名いた監督団が頂上に向かって雲尾坂を個々の間隔を詰め急ぎ登り始めた。何という変わりようであろうか。私は最後尾の監督と3m開いた間隔を最後まで詰められなかった。いつも高校生の部員と行動を共にしている監督の強さを思い知らされた。脱帽。再び笛木隊長から「もうじき選手団の出発時間です。雲尾坂をいくらか登っていないなら、交差を回避する為、お花畑まで戻ってそこで待機して下さい。」その隊長の指示を受容れば必死に頑張っ

て登っている監督達は激怒するであろう。私は急登に喘ぎながら答えた。「私の高度計で2050mを越していて、頂上へはあと10分程で到着するかと思います。このまま頂上まで登らせて下さい。」

私の要請は受け入れられた。お花畑から急いで45分、10時25分頂上に到着する。その5分後、選手団の先頭の旗手達(本校3年生3名)が発発していった。そして緊張の糸の解けた監督団の問題児2名は元の状態に戻った。

その後、ドラゴンドラへの下山中、千葉の選手の具合が悪くなり、丸山医師の点滴の手当てを受け自衛隊員に背負

苗場山頂上湿原



われて下山した。

・2012.8.10 三国峠、三角山(行動3日目) 「石川監督、悠然として動かず」

前夜の反省会で森田君と私から2名の監督の不行跡についての発言があり、バス乗車前、監督団を集め笛木コース隊長からやんわりと注意が伝えられる。「・・・支援隊員も人間なので非協力的な態度やマナー違反が続くと感情的にもなる。どうぞ協力願いたい。・・・」

99%の先生は真面目で情熱も常識もあり一生懸命なのに、ほんの2名の監督の為にこのような注意をしなければならないとは誠に残念なことであった。このようなことを無くす為、

・監督対応の2名の支援隊員は、抑えを効かせる意味で高校教師が当たる。

・選手団と同様に班編成し、その中から班長を委嘱したうえで班単位で行動してもらう。

ようにすればマナー違反、非協力的な態度は出にくいのではなかろうか。一考してもらいたいものと思う。また現在は、監督団はコース隊の中でお荷物的な扱いのようだが、コース隊の構成の重要な一部と考えればまた違った発想も出てくるのではないだろうか。

三国峠で左折し三国山の山腹をトラバース、三角山に登るあたりから今まで薄っすら立ちこめていた霧もなくなり晴れて気温上昇し暑い一日になる。平標山の家で、〇〇焼けした小柳総監督の激励を受ける。開催県の総監督も激務のようだ。前日、前々日のような事故、体調不調者もなく全員元気に平標登山口に下山し解散式が行われる。

最後に読図テストの答案が選手に返却された。他県の監督と違い、一人その場を悠然と動かない本校の石川監督の姿が際立っていて印象に残った。やるべき事はすべて事前にしてある。結果を見て今頃騒いでも仕方がないというスタンスなのだろう。



山行を終えた支援隊

3)2012.8.11 閉会式 「老OBは涙が止まらない」

前夜、苗場プリンスホテルでの打ち上げで少し飲みすぎた。長岡工高の中村先生が反省会で私が述べた意見に賛同してくれたからだ。反省会で私は次のような参考意見を言った。「インターハイ登山のような競技登山は登山の中での特殊な一分野である。高校生にこれが登山の全てというような指導をされると、卒業後登山を継続するものは多くいないだろう。登山のジャンルは幅広く岩登り、沢登り、山スキー、高所登山など楽しく心震えることが沢山ある。折に触れこれらを高校生に啓蒙して行って欲しい。」中村先生に賛同の握手をされ、酔いも手伝い思わずハグしてしまった。

表彰式が始まる。順位発表は 6 位から始まった。年初から今まで山岳部の山行に 5 回同行し、選手の成長具合を見ている私は 6 位以内入賞を確信していた。だが、なかなか県央工高の名前が呼ばれず 2 位修道高校までの発表が終わった。毎夕、引継式での答案返却時、監督のなかで只 1 人その場を動かなかった石川監督の際立って悠然とした姿が頭の中に浮かんだ。「1 位になったのだ。」私は発表の前に 1 位を実感し臉が熱くなるのを感じた。吉田先生の花道を作ると言った昨年の「岳人」の記事、1 年生の時から新潟インターハイへの出場を宿命とし努力してきた 3 年生、石川監督を筆頭に顧問の熱血指導、いろいろなことを思い出し涙腺が緩みっぱなしになった。これはまずいと思いながら、ふと隣の若い OB を見ると目から涙が溢れそうになっていた。涙が出るほど感動しているのは私だけではなかった。私はほっとしながらバンダナで涙を拭いた。

吉田先生の意気に感じ、支援隊に参加しながらも膝を痛めてしまった若い OB3 名。治療に専念しているだろうか。膝痛や腰痛はくせになり易い。どうぞ、くせにならないように完治させ、また山に戻ってきて欲しい。そして昔のように山への情熱を再燃させて欲しい。卒業してゆく 3 年生は、山岳部で山へ登りながら遠くにいろいろな山を見てきた。今夏の夏山合宿でも剣、白馬、五竜、鹿島槍、針ノ木、穂高、槍、白山などが見えた。皆、個性的で素晴らしい山々だ。今後は自力で登ってみて欲しい。山岳部で培われた力が更に発展してゆくことと思う。そして将来、君達が 8000m 峰へ挑むことがあれば、私はよろこんでカンパに協力するだろう。気が早いことを思いながら、老 OB の今年の楽しく熱い夏は終わった。

(1 回生)



阿部孝幸 昭和 54 年卒

お疲れ様です、今上海にいます。

インターハイの後、出張続きで山どころではありません。でもインターハイ役員で参加して久しぶりに登山の基本を思い出させてくれる高校登山大会でした。

私は社会人の山岳会に入っていますが、やはり基本は高校生登山にあると、感じました。

これからも自分なりの山登りを楽しみたいと思います。

三条工業高校 14 回生、現在 52 才です。

石村 統 平成4年卒

インターハイ役員と参加して

平成24年度全国高校総体体育大会登山大会の役員として、参加でき良い経験をさせていただきました。

役割は、A隊の支援隊員と云うことでしたが、全国の選手たちとともに登山ができたことは良い思い出にもなりました。

私は、宮城と静岡のインターハイに出場させていただきましたが、役員としての仕事は裏方なのでとても興味がありました。

実際、経験してみているいろいろな役割があり、多くの先生方やOB・OGの方々が参加して支援していたことを始めて知りました。

このような経験ができたことを誇りに思います。

大会期間は、天候にも恵まれ、苗場山、平標山、三国峠山域では暑いくらいの登山になりました。

そのような中で、母校の県央工業も大会で優勝できたことも、大変うれしく思います。

閉会式では、県央OBの皆が優勝「新潟県・・・」と云うところで、「おおお」と学校名を言う前にフライングしていたのも印象に残りましたが。。。

また、このような機会があればぜひ参加させていただきたいと思います。

役員として参加したことにより、最近、じじとばば、娘2人と登山をするようになり、良いきっかけになりました。

今後は、OBで年1回くらいは集まって、登山をしてみたいですね。

最後に、優勝した県央工業の選手諸君、おめでとうございます。

吉田先生、山岳部の監督・顧問として長い間お疲れ様でした。まだまだ元気でいてください。

今年のOB会が楽しみです。お手伝いしますので、盛大に行いましょう。

県央（三条）工業山岳部 27 回生

廣瀬守彦 平成7年卒

北信越かがやき総体登山大会 支援隊へ参加して

県央工業高校選手のみなさん本当に優勝おめでとうございます。

OBのひとりとして本当に嬉しいです。

私は今大会支援隊員として参加させて頂きいろんな事を体験・経験させていただきました。

●県央工業高山岳部（三条工業高）OB支援隊員のチームワークと母校を思う気持ちが再認識させていただいたこと。

斎藤会長をはじめ諸先輩方、後輩たちと今まで以上にコミュニケーションが取れ、みんなが大会を成功させようと一丸となれたこと。

●救護支援隊員として参加し3日間ドクター、看護師のサポートができたこと。

山中で実際にあった救護現場で経験したことは自分自身にとってとても良い経験になりました。

怪我や体調不良は誰でも起こること、それを回避するための知識、体力、体調管理、装備の大事さを痛感しました。今後自分の山行に当てはめていきたいと思います。

今大会に役員として参加できて本当に良かったです。

県央工業高山岳部（三条工業高）を誇りに思います。

一番は、選手のみなさん感動をありがとう！

おめでとう！

三条工業高30回生

佐藤大地（平成 11 年卒）

昨年 9 月に吉田先生からのメールで、インターハイ役員を募集していることを知った。自分は卒業してからほとんど山には登っていなかったし、登る自信も無かった...だから自ら役員に志願する気も無かった。

2 週間後、再度、吉田先生からのメールで、役員が集まっていないことを知った。

少し考えて、ある男に電話をした。

「役員。やらないか?.....」

次の日、その男と酒を飲みながら話し合った。仕事のこと、体力のこと、不安なことはいっぱいあった。その男は相変わらず弱気だったが、結局、お互い同じ思いだった.....。

スグに吉田先生に二人とも役員に志願することを伝えた。その後は不安な気持ちを隠すかの様に、高校時代の思い出話して酒が進んだ。とてもうまい酒だった。

それから準備をすすめて行くうちに思うようになった。「どうせやるなら、良い仕事してやろう。全国の高校生に、そして自分に、良い思い出を残せる様に...」

自分が現役の頃のインターハイの資料を、押し入れから引っ張り出し、ふと、思いだそうとするが、ほとんど記憶に残って無い。14 年も前のことだから仕方ないのか...

いや、当時は全国大会というプレッシャーで緊張して、記憶がほとんど残って無いのだ。だからこそ、今回のインターハイは、なるべく記憶に残る、思い出になるインターハイにしよう。

自分にとっては二度目のインターハイ。思う存分楽しむことにした。

そして 7 月の事前研修会。

少し心配だった体力も、登ってみれば問題無いことに気付き、山を楽しむことができた。

そして山を下りた後、みんなで飲んだビールが何よりうまかった。

この研修会では、個人的には山に登る自信を得たので良かった。

それと、二日酔いには注意しなければならない。。ってことも学んだ。

しかし工業OBとしては、膝を壊す人がいたり、登山靴が破損した人が二人もいたりです少し心配だった。

...が、一人はスグに山を下り、眩しい光を浴びながらも車を飛ばし登山靴を買いに行き、一人は近くの雑貨屋で赤く輝く長靴を買い、それぞれ次の日の山を難なく登りきった。さすが工業OBだと思った。

そしていよいよ大会本番。

丸一週間、仕事を休むこと。会社の上司は嫌な顔をしつつも、「ケガだけはするなよ！青春の続き、楽しんで来い。」と温かい言葉をいただいた。

その言葉で頭の中で引っ掛かっていたモノが無くなり、さらにインターハイを楽しもうと思えるようになった。

大会日程を見てまず考えたこと、研修会で学んだことを踏まえて、いつがたらふく飲んで

も大丈夫な日か。。

そんなことを考えつつ、実は少し緊張もしていた。

実際に大会が始まり、全国から集まった選手たちを見ると、14年前の記憶がよみがえってきて、新鮮でワクワクするような不思議な気持ちになった。

山行時は少しの荷物を、なんちゃってメインザックに入れて登る。何もなければ大勢で登る楽しい登山なのだ。何もなければ...

山行二日目。まさか昨年の優勝高校がリタイアするとは...

支援隊員として班から離れたチームを見守りながら隊長が来るのを待っている時、チームのメンバーは落ち込んだ様子だった。たまらず声を掛け、14年前の自分の話をした。それで彼等の気が晴れたかはわからないが、少しは役に立てたのでは？と思った。

...しかし、改めて登山の厳しさを教わった。

その後もリタイアしたチームのことが気にかかっていたが、閉会式の時、四人揃って出席していたので安心した。

閉会式。成績発表の時も14年前を思い出していた。

あの時、自分たちは6位でステージに上がったのはリーダーの自分だけだった。本当は四人でステージに上がりたかった。

そんなことを思い出しながら、優勝校の発表を待っていた。

「優勝、新潟県...」この瞬間に思わず立ち上がって拍手しそうになった。

その後続く「県央工業高校」の言葉を聞いた瞬間、泣いてしまった...

今大会では、県央工業高校は見事な成績で四人でステージに上がっていた。

自分たちの時と比べてしまい、羨ましく思えた。

式の後、リタイアしたチームのリーダーが来て挨拶をしてくれた。色々な思いがあって、泣きそうになった。

自分のかぶっていた役員用の帽子を記念に欲しいと言われ、こころよく汗臭い帽子を渡した。。

今回、この大会に役員という立場で参加できたことで、昔を思い出したこと。

あまり繋がりの無かったOBとも仲良くなれたこと。

そして、これからまた山に登りたいと思うようになったこと。

たくさん得るモノがあった。

参加できたことに感謝します。

青春の続きをありがとうございました。

それと、今大会に参加したくても会社の都合上、参加できなかった人。

大会中に負傷して、登れなくなり悔し涙を流した人。

様々な人が居ると思います。

気持ちは多分一緒だと思います。これからみんなで山に登って、うまい酒を飲みましょう!!

高野雄一 平成 11 年卒

平成 24 年度全国高等学校総合体育大会登山大会 第 56 回 全国高等学校登山大会の役員として参加したことについて。

昨年の秋、吉田先生から連絡を頂いて、いろいろと不安はありましたが 高校の三年間お世話になった山岳部、選手として出場した全国大会、そして恩師である吉田先生に少しでも恩返しできるなら お役に立てるならと思い大会役員として参加することを決めました。大会本番では A 隊 8 班の支援隊員として行動させてもらいました。

現役以来の 3 日間の登山行動で体力的に不安はありましたが大会前の研修で平標山と苗場山は登っていたので何とか乗り切ることができました。

登山行動初日にアクシデントがあり支援の自分と選手で待機、行動という場面があり、無線のやりとりで自分が不慣れということもあり少しあたふたしてしまいましたが選手も体調が戻り無ことに班と合流できて良かったです。

登山行動最終日の解散式後にアクシデントのあった選手から 「あの時はありがとうございました。」と言ってもらい こんな自分でも少しは役に立てたのかなと 思いました。

大会を終えて、母校の県央工業が初の全国大会優勝という素晴らしい成績をおさめたこと。そして役員の方々、全国から集まった選手達、県央工業 OB の皆さんと天気にも恵まれ 素晴らしい登山行動ができたこと。

また県央工業 OB の皆さんと年代をこえて交流ができ絆が深まったこと。

自分の人生にとってかけがえのない本当に素晴らしい経験をすることができましたことを感謝しこれからの人生にいかしていきたいと思います。

ありがとうございました。

小林怜央 平成 12 年卒

大会役員の募集がライダーズインザスカイに何度か載っていたのですが、誰か行くだろうと流して読んでいました。けれど、かなり後半になっても'人数が足りません'と書いてあったことや、佐藤先輩と高野先輩の名前があったことで、行こうと決意しました。

その後は先輩方に連絡して、装備の確認や買い出しをして準備は整いました。

大会前に研修会があり、一日目は打ち合わせで、二日目は苗場山、三日目は平標山でした。問題が発生したのが二日目の苗場山を登り下り始めてすぐでした。登山靴のソールが剥がれたのです。その時は針金で応急処置をして下山できました。必携パックの中にある針金は使うこと無く在学中は過ごしましたが、改めて必携パックの中身は必要なものだとということを実感しました。二日目は近くの雑貨屋で購入した長靴で登りましたが、登りは軽くすいすい登れたのですが、下りは階段だらけのコースで、かなりヒザがいたくなりましたが、無事に研修を終えることができました。

そして大会当日になり、一日目は大会の行動予定の会議がありました。

二日目は開会式のみで登山行動はないため、明日のミーティングを行いました。自分の役割は二班の支援隊員で、生徒に何かあった時サポートする業務です。

三日目は平標山での登山行動で、何事も無く進んで行ったのですが、山頂からの下りの階段で、前回の研修の時と同じ痛みがでてきましたが、支援隊員が支援されるなんてとんでもない事態だけは避けるために気合を入れてくださいました。下山後に隊つきの医者先生に見てもらったら、半月板損傷の恐れがあるといわれ、それからは明日までに治そうとヒザを冷やして過ごしました。

四日目は、登山は無理と医者に止められてしまい、大会本部の通信の手伝いをする事になりました。県大会で優勝する実力を持っている生徒たちばかりなので、登山行動が始まれば本部の作業は楽になるのかと思っていたら、A 隊 B 隊ともにトラブルがあり、本部と登山隊を繋ぐ通信は非常に重要なものだと実感しました。

五日目は中継地点での通信中継の手伝いをしていました。

役員としての役割も終わり、残りは閉会式となりました。県央工業が優勝、あまり役に立つことが出来なかったのですが、その場に立ち会えてきて良かったと思いました。

今回の大会で役員として参加させていただき、大会運営の大変さ、緊急時に使う装備の大切さ、日頃のトレーニングの重要性など色々と多くのものを学ばさせていただきました。

この経験を無駄にしないためにも、これからはトレーニングをして万全の態勢で山に登りたいと思います。

最後に県央工業の優勝おめでとうございます！

森田 豊 平成 12 年卒

新潟インターハイを終えて

2012 北信越かがやき総体に行動支援役員として参加いたしました。

自分は監督支援として、各学校の監督の方々の先頭を歩くことです。

正直、役員の仕事よりも登山行動中、最後まで歩き通せるか心配でした。約9年ぶりの登山は緊張しました。

実際に登山行動が始まると、ペースもゆっくりで体力にも余裕があり山を楽しみながら登ることができました。ただ、監督の方々を50人も引き連れて行動するのはとても大変でした。人数が多い分歩くペースや指示などを考えながら登ることが一番疲れしました。

登山行動をしながら、こんな大勢の人を引き連れて歩くなんて、まるで山岳ガイドだなと思ったりもしました。でも、二度と大勢の人を引き連れて登山なんてしたくないと思いました。

しかし、このインターハイに役員として参加させていただいたことで、役員として参加していた県央工業のOBの先輩、後輩、他の役員として参加していた方々と接することができ、とても楽しい登山生活を過ごすことができました。この場に参加でき、とても良かったです。

最後になりますが、このインターハイの登山競技を運営、支援された方々大変お疲れ様でした。

そして、県央工業山岳部のみなさん全国優勝おめでとうございます。

これを機会に、個人的に登山をしたいと思います。

斉藤圭太 平成 17 年卒

当初、私は役員参加する予定ではありませんでした。大会開催の一週間前、学校へカンパを持って行った時のことです。石川先生、吉田先生に「丁度いいところに来た」と言われ、呆気にとられるうちに話がすすみ。色々ありまして、幸運なことに参加が急遽決定。

正直、部活を引退してから山に登ってなく、家中から現役当時の道具を引っ張り出し、足りない物は部の道具を借りて、参加しました。

支援隊として県央工業の選手と同じ 4 班に配置され、選手たちの後ろを付いて登りました。

私がいちばん選手の近くにいた OB だったと思います。選手たちは余裕があり、山を楽しんでいるように見えました。さすがです。私は足がガクガクでした。4 班は行動中にトラブルもなく、無事に行動を終えました。

私の 8 年越しの登山靴の靴底も、剥がれる事なく無事で良かったです。

OB の先輩、後輩、同級生や元コモの先生方と再会し、また役員の仕事を通し多くの人と交流がもて、とても楽しい時間をすごしました。

そして記念すべき優勝の瞬間に立ち会えたこと、どれも貴重な体験になりました。一生忘れることのない思い出と思います。

優勝おめでとうございます。

お疲れ様でした。

ありがとうございました。

武藤隆太 平成 17 年卒

今回、新潟インターハイに支援隊で参加させてもらい生涯で一度あるかないかの経験をさせて頂きました。新潟でインターハイをやると聞いたのは、自分がまだ高校生の時で吉田先生からだだったと思います。

その時は、まだまだ先の話しで実感が湧かず自分が支援隊で参加するとは思っていませんでした。

しかし、高校を卒業し就職してからあつという間に7年がたち気付くと新潟でインターハイが開催される年が近づいていました。

卒業してからもたまに後輩のトレーニングや設営練習に付き合ったり山行に同行したりとちょくちょく部活に顔を出していたせいかわかりませんが、新潟インターハイが近づくにつれて「自分も新潟インターハイに出てみたいなあ」と思うようになっていました。

そして、体力が落ちていてかなり不安でしたが支援隊員で新潟インターハイに参加させてもらうことにしました。

新潟インターハイは、天候に恵まれ大したトラブルや事故もなく全国の選手達と平標山、苗場山を登ることができ閉会式には県央工業の優勝の瞬間にも立ち合えると最高の大会でした。

高校の時に選手で出るインターハイとは違うインターハイを経験できたこと、またいろいろな楽しい思い出をつくれたこと今回新潟インターハイに参加して本当によかったです。

蝶間林 誠 平成 17 年卒

県央工山岳部のインターハイ優勝を飾った今大会の支援として参加させていただいたことを嬉しく思います。

久々の山行の上に厳しいコースでしたが、高校時代を振り返り、懐かしさを感じることができました。

来年の大分インターハイにも出場できるよう練習を重ね、良い結果を残せることを期待しています。

川村浩貴 平成 19 年卒

今思えば、数年前に吉田先生が、「新潟の全国総体で OB に来てもらう」と言っていたのが始まりだったような。

当時は自分が参加するなんて全然考えていませんでしたし、もっと年上の OB が誘われるのかなと思っていました。ところが、全国総体の話を忘れかけていた去年の 8 月下旬、吉田先生から全国総体登山大会補助役員に参加しませんかとお誘いがありました。

あの時は誘いを受けてすぐに、選手として大会に出て 23 歳で今度は役員として大会に参加できるなんて滅多にできない経験だ！と思い、すぐに参加することを決めました。その後、社長に直接一週間休ませてくださいと言いに行ったことを思い出します。直接休ませてくださいと言ったのは初めてで緊張しました。

それから一年後、今年の 7 月にあった役員研修会。自分は支援隊員として参加しました。久々の登山ということで道具があるか、ちゃんと歩けるかかなり不安でした。でも宿についてから久しぶりに先輩達に会って、四年ぶりに高校のとき一緒だったメンバーと登山できるのが嬉しくて不安なんてどこかに吹っ飛んでしまいました。二泊三日で苗場ルート、平標ルートと登りましたが、疲労感より同じ班や周りの役員との会話、久々の登山で天気が良かったので清々しさを覚えています。

研修会から半月後に本番を迎えました。1、2 日目は移動と開会式。全国の現役山岳部男子、女子を見て華やかだなと感じました。みんなカラフルなユニフォームで羨ましいなあなんて思ったり。3、4、5 日は登山行動。行動前日には毎回ミーティングをして、行動当日は支援隊として選手達の後を歩きました。ミーティングでは和気あいあいとしながらも気になった事を話あっていて、役員側にいる責任感みたいなものを感じましたし、行動中も常に無線機によるやりとり、問題が起こったときの対応など、初めて遭遇する経験が多かったように思います。6 日目は閉会式があり、県央工業高校が優勝。あの時は素直に「おおっ」と、思わず声をだして驚嘆しました。新潟開催で新潟代表が優勝したことは本当に素晴らしいと思いました。

今回、登山大会支援隊員として参加して班長、副班長、先輩方、他の役員、県央工業や他県の現役選手の方々との交流があり、とても貴重で有意義な時間を過ごせました。現役の時と違って審査がないから気軽に登山をしようと思っていても、支援隊なのだからしっかり与えられた任務をこなさなければいけないという緊張感。全員で大会を成功させようという一体感。本当に素晴らしいと感じました。それから、やはり登山は楽しかったです。高校からの仲間達、先輩方と一緒に登山が出来たことは、とても楽しくて嬉しかったです。現役の頃に戻ったみたいでした(笑)。会社には一週間休みを頂き、ご迷惑をおかけしました。そのおかげでいい経験ができました。吉田先生からは役員参加へのお声をかけていただき、本当にありがとうございました。またみんなで山に登りたいと心から思います。